

NUAL

名古屋大学全学同窓会
NAGOYA UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION

Newsletter

No.45 令和8(2026)年3月

NUAL (ニューアル) は Nagoya University Alumni Association の略称です。



上段左：名古屋大学全学同窓会シンガポール支部設立総会

上段右：第21回名古屋大学ホームカミングデイ MEIDAI Coming Marcheの様子

下段左：名古屋大学在外卒業生との交流会にて、国際交流貢献顕彰受賞者と松尾機構長、杉山総長

下段右：支援事業報告：名古屋大学宇宙開発チーム NAFT によるロケットの実証実験 機体組立風景

Upper left: Inaugural Meeting of the NUAL Singapore Branch

Upper right: MEIDAI Coming Marche at the 21st Nagoya University Homecoming Day

Lower left: Winners of the Award for Contributions to International Exchange with NUAL Director Seichi Matsuo and President Naoshi Sugiyama at the Nagoya University Overseas Graduates Welcome Reception

Lower right: NUAL Support Project: Constructing the frame for a rocket demonstration by Nagoya University Aerospace Flight Technology

Contents

- 特集1 名古屋大学全学同窓会シンガポール支部設立記念
総会・レセプション開催報告……………2
A report on the Inaugural Meeting and Reception to celebrate
the establishment of the NUAL Singapore Branch
- 特集2 名古屋大学全学同窓会講演会・夕食会報告
「認知症の百年戦記：治療実現から予防へ」……………3
Report on the latest NUAL lecture and evening meal

- 特集3 第21回ホームカミングデイ報告……………4
Report on the 21st Annual Homecoming Day
- 活躍する会員たち……………6
NUAL People in Action
- 同窓会ニュース……………10
NUAL News
- 事務局からのお知らせ……………16
From the NUAL Office

特集では、シンガポール支部設立の様子、恒例のホームカミングディ、および、全学同窓会講演会の模様をお伝えします。活躍する会員たちのコーナーでは、東京大学の小川さん、がんプレジジョン医療研究センターの堀さんにお話しいただきます。同窓会支援事業の報告も4件ご紹介いたします。

This edition's Special Features includes information about the establishment of the NUAL Singapore Branch, this year's Homecoming Day, and the latest NUAL Lecture. In NUAL People in Action, we hear from Dr. Ogawa of Tokyo University and Dr. Hori of the Cancer Precision Medicine Center. We also share the reports of 4 NUAL Support Projects.

名古屋大学全学同窓会シンガポール支部設立記念総会・レセプション開催報告

A report on the Inaugural Meeting and Reception to celebrate the establishment of the NUAL Singapore Branch

名古屋大学全学同窓会シンガポール支部
幹事
今泉 寛



名古屋大学全学同窓会は、2002年10月の設立以来、2025年に23周年を迎え、国内5支部、海外16支部を有するネットワークを築いてきました。今回誕生したシンガポール支部は、全学同窓会にとって17番目の海外支部となり、国際都市シンガポールにおいて新たな同窓会活動の第一歩を踏み出しました。

これまでシンガポールでは、「シンガポール愛知県人会」を中心に、在住の卒業生・修了生が自主的に交流を続けてきました。こうした中、2023年11月、名古屋大学の国際戦略「グローバル・マルチキャンパス（GMC）戦略」に基づき、現地法人「Nagoya University Global Campus Ltd（Nagoya University Singapore）」が設立されました。これを契機に、同窓生、大学、現役学生が交差する新たなコミュニティの姿が見え始め、2024年10月の決起集会では多くの同窓生が参加。2025年夏までにシンガポールおよび名古屋で約20のイベントが開催され、支部設立への流れが確立しました。

現在、シンガポールには、現地出身者、日本からの移住者、企業や研究機関の駐在員など多様な背景を持つ同窓生が暮らしており、支部設立は同窓生同士の交流にとどまらず、名古屋大学の教育・研究・産学連携を世界に広げる重要な拠点形成にもつながります。

Nagoya University Singapore では、2025年度に教育事業として日本から300名超の学生を対象に研修・教育プログラムを実施。研究面では、全13研究科から37の研究分室が設立され、分野横断的な国際共同研究が進められています。起業家教育・スタートアップ支援では、シンガポール国立大学（NUS）傘下の NUS Enterprise とのパートナーシップにより、名古屋大学発スタートアップの育成やグローバル展開支援を推進。東南アジア全体へのイノベーション拡大も進めています。

「名古屋大学特定基金 NU シンガポール共創事業口座」も新設され、教育プログラム支援や研究・産学連携・スタート

アップ事業の促進に活用されます。名古屋大学の国際的教育・研究拠点としての役割を支える大切な基盤です。

2025年9月6日（土）の設立記念総会・レセプションには、同窓生、現役学生、大学関係者、来賓を含む約60名が参加しました。在シンガポール日本大使館 Facebook においても当日の様子を紹介され、名古屋



瀬瀬支部長と杉山総長 支部旗と共に

の様子を紹介され、名古屋大学の国際的な活動として注目されました。また、当日は、NUSの起業教育プログラムであるNUS Overseas Collegeにて6カ月のスタートアップインターンシップに参加している教育学部3年生の中村さんが、現役生の挑戦として「Meidai Link T shirts プロジェクト」を紹介。名古屋大学の誇りと絆を再生する取り組みとして、参加者や同窓生から大きな関心を集めました。杉山総長、木村代表幹事の挨拶に続き、杉山総長から瀬瀬伸治支部長へ認定証と支部旗が授与され、会場は温かな拍手に包まれました。レセプションでは、堀田亨公使、西村聡子副支部長、Genevieve Tan 代表幹事、そして中村さんを含む学生による発表が行われ、世代や立場を越えた交流が生まれました。最後には、参加者全員が名古屋大学 T シャツを着用して記念撮影を行い、シンガポール支部の船出を祝いました。（表紙写真参照）

今後は、毎年9月頃に総会を開催し、同窓生と大学、次世代の学生をつなぐ活動を継続していきます。世界とアジアを結ぶシンガポールから、名古屋大学同窓会の新たな物語が始まりました。



「Meidai Link T-shirts プロジェクト」の紹介

名古屋大学全学同窓会講演会・夕食会報告 「認知症の百年戦記：治療実現から予防へ」

Report on the latest NUAL lecture and evening meal

名古屋大学全学同窓会
事業委員会委員長
根本 二郎



名古屋大学同窓会講演会が令和7年12月9日（火）に、一般社団法人学士会との共催で野依記念学術交流館2階カンファレンスホールにおいて行われました。参加者は109名でした。今回は、名古屋大学医学系研究科教授で同研究科長でもある勝野雅央先生をお招きし、「認知症の百年戦記：治療実現から予防へ」というテーマでご講演いただきました。

木村代表幹事の挨拶と講師紹介に引き続き、勝野先生のご講演に移りました。勝野先生はまず、認知症は患者数が多く治療の難しい病気であると述べられる一方で、興味深い二つのグラフを提示して、認知症の患者数や有病率の将来予測が減少傾向にあることを示されました。演題にある通り、認知症100年の戦いについてに明るい兆しが見えてきているのです。

勝野先生は、その医学進歩の歴史を概観します。ドイツ人の医師アロイス・アルツハイマーが、特異な認知症状を示した患者の死後に脳標本を観察して多数のシミを発見した1906年から、アルツハイマーの発見したシミ（老人斑）がアミロイドβと呼ばれるタンパク質であることが判明し（1980年代）、このアミロイドβがアルツハイマー病の原因物質の一つとして特定され（1990年代）、アミロイドβを除くためのワクチンや抗体薬による治療法研究の試行錯誤（2000年代以降）を経て、ついに

初の治療薬レカネマブが2023年に、2番目の治療薬ドナネマブが2024年に認可されるに至ります。勝野先生のお話は、わかりやすくかつインパクトのあるスライドを示しながら、研究と治療の第一線にあるご自身の立場からの高揚感すら感じられる熱弁でした。

次に、認知症としてアルツハイマー病に次いで患者数の多いレビー小体型認知症が取り上げられます。レビー小体型認知症は、名古屋市内の守山荘病院に勤務していた小阪憲司博士が発見したということで、名古屋の地に縁があります。レビー小体型認知症には発症前に便秘、睡眠障害、嗅覚障害、うつなどの前駆症状があり、その段階で予防的治療を行って発症を抑止することが考えられます。これに関しては、勝野先生ご自身の現在の研究成果を踏まえて具体的なデータも提示され、最前線の研究の一端を伺うことができました。

最後に、これからの認知症の診療について、レビー小体型認知症もアルツハイマー病も発症前から原因物質の脳内への蓄積が進むことから発症前の予防治療が重要であり、血液バイオマーカーによる診断とPETなどの精密検査の組み合わせが行われるようになるとのことでした。また、運動、栄養、リスク管理、脳トレによるマルチドメイン介入の効果はエビデンスがあるとのことです。これは聴衆の興味を引く点でもあったようで、講演に引き続き行われた質疑でも、知的活動の予防効果などが話題になりました。

講演会後に野依記念学術交流館1階で夕食会が開催され、その場でも議論は尽きることなく盛会のうちに終わることができました。興味深かつ有益な内容をわかりやすくご講演いただきました勝野先生に、心から御礼申し上げます。また無事に開催できましたこと、ご参加くださった皆様、誠にありがとうございました。



講演会の様子



夕食会の様子

第21回ホームカミングデイ報告

Report on the 21st Annual Homecoming Day

名古屋大学全学同窓会代表幹事
名古屋大学副総長
木村 彰吾



1 第21回ホームカミングデイ

第21回ホームカミングデイは2025年10月18日（土）に開催されました。それに先立って恒例となった「NU3MT NAGOYA University 3 Minute Thesis competition」が杉山直総長の司会・進行により10月3日（金）に開催され、「3MTの発表は今の学生さんの生き生きとした様子が見られて、とても良いです」というご意見もあり大変好評でした。

ホームカミングデイ当日は、「名古屋大学の集い」が開催されました。今年の「名古屋大学の集い」は対面のみで開催でした。杉山直総長、柴田昌治全学同窓会会長よりご挨拶をいただき、代表幹事の木村より令和6年度の全学同窓会の活動についてご報告いたしました。

その後、国際交流貢献顕彰表彰式が執り行われ、今年度受賞された3人の表彰式を行いました。そのうち2名は全学同窓会上海支部の呂 雷寧（ロ ライネイ）さん、同じくカンボジア支部の HAP Phalthy（ハップ パルティ）さんです。受賞者の皆さんからは一人ずつコメントをいただき、名古屋大学での留学経験を生かして活躍されている様子をお聞きし、大変喜ばしく思った次第です。なお、国際交流貢献顕彰表彰を受けられた方は、全学同窓会共催の「名古屋大学在外卒業生との交流会」にも参加されました。

国際交流貢献顕彰表彰式に引き続き、NU3MTの表彰式・



名古屋大学在外卒業生の交流会 集合写真

エキシビションが行われました。視聴者投票によるグランプリは生命農学研究科・清日香さんが受賞、総長特別賞は工学研究科・梅本駿さんが受賞され、お二人の表彰式を執り行いました。昨年に引き続きコンテスト当日に所属研究室から寄せられた応援動画も会場スクリーンにてご覧いただき、その後お二方からは3分間の研究発表をエキシビションという形で、NU3MT当日の様子を限りなく再現しました。

休憩を挟み、「名古屋大学の集い」は、坂入健司郎氏の指揮による名古屋フィルハーモニー交響楽団のコンサートに移りました。今回の演目は「J. イベール:モーツァルトへのオマージュ」、「W.A. モーツァルト:交響曲第35番ニ長調 K. 385『ハフナー』」、「P. チャイコフスキー:交響曲第5番ホ短調作品64」でした。いずれも圧巻の演奏でした。アンコールでは、チャイコフスキーのバレエ『白鳥の湖』より「四羽の白鳥の踊り」が演奏され、ご参加の皆様もお楽しみいただけたと思います。

第21回の特別企画として、Common Nexusの見学ツアーとMEIDAI Coming Marcheが開催されました。

2025年7月にオープンしたCommon Nexusはどなたも利用できる施設です。ホームカミングデイのイベントとして企画したところ、予想を上回る申し込みがあり定員を増加して実施しまし



名古屋大学の集い 国際交流貢献顕彰表彰式にて



名古屋フィルハーモニー交響楽団のコンサート



MEIDAI Coming Marcheの様子

た。参加者からは「大学での全世代型に対する施設としては珍しく、素晴らしく感じました」という感想もいただきました。全学同窓会に皆様にもぜひご活用いただけると幸いです。

MEIDAI Coming Marcheは昨年大好評だった「meidai SAKE テラス」に変わるイベントです。昼食にも利用できるよう11時からのスタートとしました。当日は生憎の空模様となりましたが、小雨が降る前の午前中はご家族で芝生の上で寛ぐ光景もありました。夕方には小雨も止み、豊田講堂前のテラスも昨年同様の賑わいとなりました。ここに来たら誰かに会えると思って参加したという卒業生にも出会うことができました。卒業生をはじめ多くの方の出会いとなるイベントになれば幸いです。

「名古屋大学の集い」をはじめ豊田講堂周辺の行事には約5,000名が参加、また、各学部や研究科などの部局のイベントに参加された方も合わせると、第21回ホームカミングデイ全体の対面参加者はのべ1.2万人となりました。

2 全学同窓会評議員会について

ホームカミングデイ当日の全学同窓会評議員会は、対面形式で開催されました。柴田会長のご挨拶、杉山直総長の挨拶



全学同窓会評議員会の様子

の後、審議に移りました。審議事項は役員交代です。長年監事をお勤めいただいた児玉光正監事が退任され、後任に笠松佑亮氏が就任することが審議の後承認されました。さらに、太田和宏顧問の退任、野田真里評議員から山本恵子氏への交代も審議の上承認されました。続いて、令和7年度の活動計画と現状の報告があり、東三河支部およびシンガポール支部が設立されたこと、エジプト支部が令和8年2月に設立されること、また卒業生のうち愛知県には5万人余が居住していることから当地での同窓生ネットワークの強化を検討していることなどが説明されました。また、恒例の全学同窓会及び学士会共催の講演会については、講師を務められる勝野雅央評議員からご案内いただきました。

評議員会の後には懇談会が開催されました。懇談会には、米国支部代表幹事の神山知久氏とシンガポール支部幹事の今泉寛氏、名古屋大学の役員も参加し、同窓会や大学についての意見交換が活発になされ、参加者間の交流が深まりました。

引き続き、皆様には全学同窓会への物心両面に渡るご支援を是非賜りますようお願い申し上げます。



豊田講堂前庭でくつろぐ来場者たち

活躍する会員たち NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界における活躍ぶりをご紹介します。第44回は、経済学研究科で博士学位を取得され公共経済学の分野でご活躍の小川さん、創薬科学研究科を修了されがん研究の分野でご活躍の堀さんにお話しいただきます。

NUAL People in Action introduces the activities of alumni in various sectors. In this 45th installment, we hear from Dr. Ogawa, who received his doctorate from the Graduate School of Economics and now works in the field of public economics, and Dr. Hori, who studied at the Graduate School of Pharmaceutical Sciences before going on to work in cancer research.

おがわ ひかる
小川 光さん



@ナゴヤドーム

■略歴

1970年 東京都生まれ
1989～1993年 名古屋大学経済学部
1993～1998年 名古屋大学大学院経済学研究科
1998～2015年 名古屋大学講師・准教授・教授
2015年～ 東京大学教授

【満員電車で名古屋へ】

都立高校での生活は、とても自由で素晴らしい時間でした。ただ、その自由さとは正反対の不自由な場所がありました。朝の同じ時間、同じ車両の同じドア付近で、同じ顔ぶれと押し競まんじゅうのように詰め込まれる満員電車です。バブル期の小田急線、下北沢駅から新宿駅にかけてのことです。

特に取り柄が無い自分は、「ふつう」の大学に進み、「ふつう」の会社に入り、そして定年まで一生、東京での押し競まんじゅうを続けるのか…進路を考える頃になると、そんな将来への漠然とした嫌気や、どうすればよいのか分からないモヤモヤを抱えるようになりました。そんな東京からの逃避の気持ちを進路相談で打ち明けたところ、担任の先生が勧めてくれたのが名古屋大学でした。そうして私は、縁もゆかりもない名古屋へやって来ました。1989年のことです。

【ミクロ経済学と恩師との出会い】

入学した経済学部では、ウォーラステインの世界システム論やボワイエのレギュラ

シオン理論といった、当時の名古屋大学経済学部生がまず触れる経済学を習いました。ごちゃごちゃしてよく分からない世の中を、システムティックに理解した気にさせてくれる話し上手な教授に教わり、「おー、これが経済学なのか」と、いとも簡単に影響されました。

ところが、ミクロ経済学を学んでみると、そこにはまったく違う世界が広がっていました。「誰それはこう考えた」「世の中をこう捉えた」といった学説史的な学問ではな



奥野信宏先生の大学院門下生とともに（2017年）

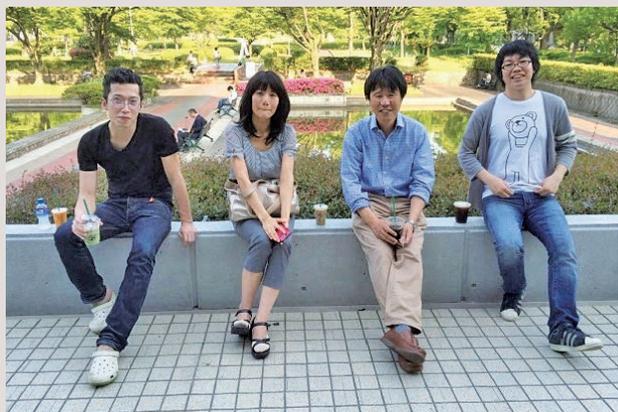
く、数学を使って、論理を一つひとつ積み上げて定理を証明し、データを使って理論仮説を検証しながら、人生や世の中を理解しようとする。そんな“科学”としての経済学があることを知ったのです。

経済学で数学を使うなど露ほども思わず、しかも数学が大の苦手だった私ですが、その科学っぽい雰囲気惹きつけられました。そして3年生からは、ミクロ経済理論を使って公共政策の分析や評価を行う公共経済学を学べる教授のゼミに入ることにし、そのまま大学院に進学しました。その教授こそ、後に私の人生の師となり、後ろ姿を追い続けることになる奥野信宏教授（元名古屋大学副総長）です。

博士号をいただいた後は、名古屋大学で17年間、教育と研究に携わる機会に恵まれました。公共経済学の中でも税競争理論という分野で、野球に例えるなら、デッドボールでもいいからなんとかメジャーリーグの試合で出塁しようと、ひたすらバットを振り回していたところ、偶然にも当たった1球がホームランに—そんな幸運にも恵まれました。

【人生を作ってくれた場所】

18歳から45歳までを過ごした名古屋（と暮らしていた西三河）は、私の価値観や人生観、友人関係のほとんどが形づくられた場所です。そのため、45歳で東京大学に移ってからも、つい「名古屋ではね……」という、典型的な“出羽の守”のような話をしてしまい、煙たがる学生からは「東京出身なのに、どうしてそんなに名古屋愛



小川ゼミの“愉快的三銃士”に挟まれて（2014年）

が強いんですか」と聞かれる始末です。

自分でもなぜなのか深く考えたことはありませんでしたが、結局のところ、人生で一番楽しく幸せな時間を過ごせたのが名古屋だったからなんだと思います。生きていく道を見つけ、生きていく術を身につけさせてくれました。家族を持ち、3人の子育ても経験させてくれました。豪快な、素晴らしい師に恵まれ、愉快的仲間と研究をしました。特に、博士課程で指導した大学院生からは多くのことを学びました。そして、何よりも、たくさんお酒を飲みました。

【私の中での名古屋大学】

愉快的仲間ということで思い出しましたが、名古屋大学は学術憲章で「勇氣ある知識人」を育てる場であるとうたっていますが、私にとって名古屋大学は今も昔も、「自由闊達、愉快な人」が集う場です。とんでもない教授に嫌な思いをしたこともありますが、ほとんどの学生、先輩・後輩、同僚は本当に愉快で心の温かい人たちでした。頑張ってみてダメだったら弱音をはいたり、困ったら助けてもらえたりできる、人生に最強の保険がかかった気持ちでいることができたのは彼ら・彼女らのおかげです。

東京に移った今でも、名古屋に残っている研究者、全国に散らばって活躍している先輩・後輩・元同僚とのネットワークに助けられています。こうして振り返ると、私が好きだったのは「名古屋という場所」そのものというより、そこに集まっていた「名古屋の人たち」だったのだと思います。

【再び満員電車へ】

たまたま流れ着いた名古屋で育てられた自分が、結局は若い頃に逃げ出した東京で、振出しに戻って教育と研究に奮闘する日々を過ごしているのですから、人生とは不思議なものです。若い頃に逃げ出した満員電車でしたが、気づけば、降りたつもりが別の車両に乗り換えただけ。研究と業務との押し競まんじゅうに奮闘する毎日です。

堀 公法さん



■略歴

2012年～2016年 名城大学 農学部 応用生物化学科
2016年～2018年 名古屋大学大学院 創薬科学研究科 基盤創薬学専攻 修士課程
2018年～2021年 WDB 株式会社エウレカ社
2021年～2025年 東京大学大学院 医学系研究科 病因・病理学専攻 博士課程
2025年～ 公益財団法人がん研究会 がんプレジジョン医療研究センター 特任研究員

【はじめに】

新一万円札の顔となった渋沢栄一らが中心となり、1908年（明治41年）に創立された日本初のがん専門研究機関である“がん研究会（がん研）”で、私は今、希少がんの研究に従事しています。希少がんとは、人口10万人あたり6人未満という極めて発生頻度の低いがんの総称です。患者数が少ないことから、企業による開発投資も進みにくく、大腸がんや肺がんといった主要ながんに比べて、治療薬開発が遅れている状況です。私は、この希少がんに対して、プロテオーム解析という研究手法を用いて、がんを理解しようと挑戦しています。

【名大での2年間】

現在のキャリアのルーツを遡ると、名古屋大学での日々に辿り着きます。2016年から2年間、創薬科学研究科の修士課程学生として、廣明秀一先生の研究室でご指導いただきました。当時、私が取り組んでいたのはバーチャルスクリーニングによるがん治療薬の探索研究でした。学部時代とは異なる研究分野であったこともあり、最初は右も左も分からない状態で、進捗報告や論文紹介の際には、毎回胃が痛むような緊張感を持って臨んだことを覚えています。ただ、今振り返ってみると、非常に刺激的で充実した時間を過ごせたと感じており、今のキャリアに進むきっかけとなった人生において重要な期間であったと強

く思います。入学当初は手探り状態でしたが、修士修了時には自身の研究に区切りをつけることができ、その後、論文として発表することもできました。これはひとえに、廣明先生をはじめとする研究室の方々、未熟な私に対しても真摯にご指導くださった賜物だと感じております。この“未経験分野ながら一つの研究をやり遂げた”という経験は、研究のみに限らず、私の人生における大きな基盤となっています。

【就職から博士課程進学まで】

修士課程修了後、私は一度アカデミアを離れ、派遣会社を経て製薬企業の研究部門で働きました。そこで抗体医薬の初期スクリーニングに従事し、実際の創薬プロセスに触れられたことは非常に貴重な経験でした。

一方で、自身の研究から離れて創薬研究全体を俯瞰的に見られたこの期間に、学生時代から抱いていた“優れた薬を作るだけでは、がんは克服できない”という課題を強く意識するようになりました。現在の創薬の主流である分子標的薬は、がん細胞のみを攻撃するというコンセプトから副作用は比較的少ないですが、患者さんによって効果に大きな差が生じることも事実です。この相性のような現象は、薬の標的となる分子がその患者さんのがん細胞に存在するかどうか等、様々な要因によるものです。したがって、単に薬を開発するだけでなく、各患者さん

の状態を把握し、その薬が効くかどうかを診断する技術が不可欠になります。このような考えから、コロナ禍でまだ社会が混乱していた時期ではありましたが、派遣会社を退職し、博士課程へ進学しました。

【がん研での研究】

博士課程では東京大学に進学し、現所属でもあるがん研の植田幸嗣先生のもとで、研究のご指導をいただきました。同研究室では、診断に有用なバイオマーカーの探索を目指し、プロテオーム解析に取り組みました。プロテオーム解析とは、生命現象の根幹をなす“タンパク質”を網羅的に調べる研究手法です。この手法により、がん細胞がどのようにして生存しており、悪さをしているかを知ることができ、バイオマーカーや治療薬開発につなげることができます。博士課程から取り組んできた研究では、この技術を用いて、粘液型脂肪肉腫という希少がんの解析を行い、同がんの進行例に対する新規の診断マーカーおよび治療薬の候補を発見することができました。

がん研での研究の最大の醍醐味は、基礎研究者が、

日々患者さんの治療にあたっている臨床医と密に連携できる点にあります。私のような非医療従事者の研究者だけでは、実際の医療現場で何が不足し、何が求められているのかを肌で感じることは困難です。しかし、がん研では臨床医の方々が現場で感じた疑問や課題といった「生の声」を聞くことができ、それらをもとに研究の立案・推進ができます。前述の粘液型脂肪肉腫の研究に関しても、臨床医の方々の疑問から研究がスタートしたもので、現在は発見したシーズを患者さんに届けるために彼らと協力して実用化を目指しています。異なるバックグラウンドを持つ専門家同士が議論することは難しさもありますが、“患者さんのために”という共通のゴールを目指して進むプロセスは非常に刺激的なものです。

今後は、他の希少がんの研究や、新しいプロテオーム解析技術の開発にも挑戦していく予定です。研究活動のみならず、未知の領域への挑戦を通じて社会に貢献し、名大卒業生として「勇気ある知識人」を体現できるよう、日々精進してまいります。



日本プロテオーム学会2024年大会での発表風景



プロテオーム解析実験装置（液体クロマトグラフィーと質量分析計）

支部・部局便り News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。それぞれが全学同窓会と連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

タイ支部 NUAL Thailand Branch

名古屋大学全学同窓会タイ支部 創立20周年記念式典を開催

2025年、名古屋大学全学同窓会タイ支部は創立20周年という大きな節目を迎えました。これを記念し、一年を通じて様々な記念事業が実施されました。

記念事業の集大成としての式典開催

2025年11月1日（土）、バンコク市内のホテルにて記念式典が執り行われました。当日は全学同窓会事務局をはじめ、日本人・タイ人の同窓生計41名が一堂に会し、華やかな祝賀の場となりました。

開会の辞：タイ支部同窓会会長 Prof. Dr. Siriporn Wajjawalku より、20年の歩みを振り返る力強い挨拶がありました。

特別講演：木村彰吾副総長にご登壇いただき、名古屋大学の「今」についてお話しいただきました。変わりゆくキャンパスの様子に、参加者は自身の学生時代を重ね合わせ、熱心に耳を傾けていました。

円卓会議：「Reflection about Nagoya University from Alumni Point of View」と題し、各世代を代表する5名の同窓生が登壇しました。当時の思い出話から、未来の名古屋大学に向けた提言まで、世代を超えた活発な意見交換が行われました。

今後の展望：国境を越えた同窓生ネットワークの強化

本事業を通じて、一つの支部と大学との連携に留まらず、地域をまたぐ海外支部同士の連携強化の重要性が再確認されました。世界中に広がる同窓生ネットワークを相互に繋ぐことで、名古屋大学のプレゼンスをさらに高めていくことが期待されています。

20周年記念電子書籍のご案内

タイ支部の歴史をまとめた記念書籍を以下のリンクよりご覧いただけます。

「A Moment of Memory: the 20 Years Anniversary of the Establishment of the Nagoya University Alumni Association, Thailand Branch」

ダウンロードはこちらから

<https://shorturl.at/RtJ8P>



参加者の集合写真

上海支部 NUAL Shanghai Branch

名古屋大学上海同窓会20周年記念イベントの開催

11月22日（土）、上海支部の創立20周年記念イベントが開催され、同窓生と名大関係者などを合わせて、合計100名以上が参加しました。

午前の部は野依教授の記念講演で幕を開けました。

午後の式典は万家駿幹事の協力で、森ビルの43階で開催され、国際交流貢献顕彰された呂雷寧幹事長らが司会を務めました。杉山総長は名大の最新情報を紹介し、木村副総長は上海支部の20年を振り返り、支援金の目録を贈呈しました。全学同窓会の西村今日子副会長及び愛知県事務所の鈴木健大所長の挨拶の後、洪庚明副支部長から、名大への寄付金の他、200名以上の名大生をホームステイや企業研修で受け入れたなどの実績を紹介しました。その後は、幹事の紹介や代表のスピーチがありました。

3月に始まった記念キャンペーンには、記念ロゴのベストデザ

インで総務部の岩瀬由加子さん、優秀文章の李紹非さん、そしてベスト文章の孫曼さんに賞状が授与されました。孫さんは受賞スピーチで、留学時の心温まるエピソードと帰国後の中日交流への貢献を語りました。張豪支部長の挨拶と集合写真の後、近くのレストランで懇親会が開催されました。

張支部長、野依教授らの挨拶の後、杉山総長の乾杯の



記念式典の様子

挨拶がありました。

懇親会中には、クジによるリレー形式で、木村副総長から始まり、数名の同窓生が名大の思い出を語りました。病気になって、指導教官と主治医からの経済支援のお陰で、無

事学業を終了できたという心打たれた話もありました。会の終盤には多くの参加者は上海支部の旗の前で撮影し、最後は蛍の光を歌って閉会し、温かく思い出に残る懇親会でした。

マレーシア支部 NUAL Malaysia Branch

Nagoya University Alumni ASEAN Online Dialogue: Fostering NUAL Connectivity in ASEAN Region for a Connected Future

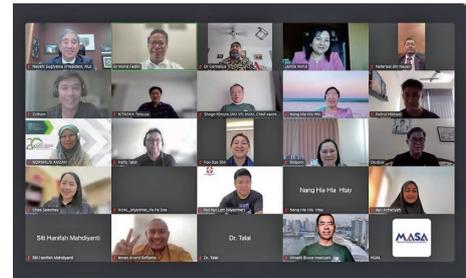
2025年12月6日(土)に名古屋大学同窓会マレーシア支部は、マレーシアがASEAN議長国を務める2025年に合わせて、「名古屋大学同窓会 ASEAN オンラインダイアログ: ASEAN 地域における NUAL の連携を促進し、つながる未来を築く」を開催しました。

このイベントの目的は、(1) ASEAN 地域における名古屋大学同窓会 (NUAL) の連携を促進し、対話とネットワーキングを通じて未来への繋がりを築き、(2) ASEAN 全体の NUAL メンバー間で洞察を交換し、ベストプラクティスを共有し、課題に立ち向かい、より緊密な連携を促進するためのプラットフォームとして機能し、(3) ASEAN の NUAL 支部間での研究協力、共同プログラム、能力開発活動、および長期的なパートナーシップの機会を探り、(4) マレーシアの ASEAN 議長国2025を、特に教育、若者のエンパワーメント、デジタル化、人々のつながりといった ASEAN の目標に沿った活動で支援することです。

このイベントには、マレーシア、タイ、カンボジア、ミャン

マー、インドネシア、シンガポールの6か国の ASEAN に属する NUAL 支部の代表者が参加しました。プログラムは、NUAL マレーシア支部長のジャミラ・モハメド博士による歓迎の挨拶で始まりました。次に、在マレーシア日本国大使館広報文化部長の北岡達也氏がスピーチを行いました。続いて、名古屋大学総長の杉山直教授が、名古屋大学の最近の進展について講演しました。その後、各国の代表者が、それぞれの支部の最新の動向を発表しました。最後に、参加者は小会議室に分かれ、和やかな雰囲気の中で意見交換を行いました。

今後は、再びオンラインで対話を継続することを検討しています。



オンラインでの集合写真

同窓会・大学行事カレンダー

全学同窓会、部局同窓会、及び、大学に関する行事が下記のとおり開催されます。詳細は、全学同窓会ホームページ <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/> をご覧下さい。

○関東支部

東京キタン会総会
恒例の総会決議事項の結果報告会、講演会、懇親会を開催します。
日時：2026年6月20日(土) 11:00~14:00
場所：都内
連絡先：千本 (S63) t-chimoto@nifty.com

○名大遠州会

名大遠州会第27回同窓会・第14回総会
日時：2026年6月6日(土) 18:00~
場所：ホテルクラウンパレス浜松
連絡先：名大遠州会同窓会事務局長 鈴木鉄郎
E-mail: enshuszk@yahoo.co.jp

○関西支部

関西支部 第17回総会講演会・懇親会 (開催予定)
開催日：令和8年(2026年)6月13日(土曜日)
会場：中央電気倶楽部
講師：河江肖剰
(名古屋大学デジタル人文社会科学推進センター/高等研究院 教授)
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2丁目1番25号 (代06-6345-6351)
・13時 開場・受付 ・14時 開会 ・17時 懇親会

○岐阜支部

岐阜支部2026年度総会・講演会・交流会
詳細は追ってHP等でお知らせしますので、ご予約下さい。
日時：2026年5月30日(土) 13:00~17:00
場所：じゅうろくプラザ大会議室 (JR 岐阜駅隣)
<http://plaza-gifu.jp/>
*総会
*講演会 講師 河合仁美 (東京海上日動火災保険株式会社)
森下啓之 (UBE 株式会社)
*交流会 ラ・ローゼ・プロヴァンス (プラザ1階)
(岐阜支部事務局: 2019nugaa@gmail.com)

○東三河支部

令和8年度 東三河支部総会
日時：令和8年7月5日(日)
会場：ホテル アークリッシュ豊橋5F ザ・グレイス
豊橋市駅前大通一丁目55
設立総会 11:00~11:30
講演会 11:30~12:30
懇親会 12:30~14:30

同窓会支援事業 NUAL Support Project

全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生活動、就職支援事業、本部・部局による行事・寄附講義等）を支援するため、公募型の大学支援事業を実施しています。

NUAL has an open invitation type support project for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association.

大学支援事業目録贈呈

令和7年11月11日(火)、令和7年度第3回幹事会において、全学同窓会大学支援事業（令和7年度第1回）採択に目録が贈呈されました。

今回は、11件の応募から、表の5件が採択されました。

事業の内容は、実施後に本誌で紹介され、全学同窓会 HP でも公開されます。

また、これまでに採択した事業を全学同窓会 HP で公開しています。

所属・職名等	申請者	事業名
名古屋大学テクノロジーパートナーシップ・所長	神山 知久	ノースカロライナ州立大学と名古屋大学の学術連携等40周年記念行事
グローバルマルチキャンパス推進機構 特任助教 バンコク事務所 副所長	ウイラヤー チェンチティクン	タイ支部同窓会20周年記念事業
工学部電気電子情報工学科 3年	平尾 杏奈	世界大会出場を目指す火星ローバーの性能実証実験
未来材料・システム研究所 所長	内山 知実	未来材料・システム研究所10周年記念シンポジウム
附属図書館 館長	佐久間 淳一	附属図書館における就職支援のための電子書籍の充実



授与式の様子



集合写真

バンコク事務所10周年記念式典・講演会

申請代表者：井手暢子（教育推進部国際連携課長）

名古屋大学バンコク事務所が2014年に設置されてから10年を迎え、全学同窓会から支援を受け、バンコク事務所10周年記念式典がMandarin Hotel（バンコク）で2024年10月25日に執り行われました。記念式典には、チュラロンコン大学学長、カセサート大学副学長、ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校学長、バンコク病院副院長、並びに日本大使館、JASSO 及び日本交流基金関係者等を来賓として招待したほか、JUNThai 等の関係者が出席し、名古屋大学からは、杉山総長、木村副総長、水谷副総長、小橋工学研究科長、島

田国際開発研究科長、大蔵理学研究科副研究科長並びに同時期に開催されていたシンポジウムに参加している名古屋大学関係者が出席し、活発な交流が行われました。加えて、名古屋大学同窓会タイ国支部の同窓生、タイに在住している本学同窓生等が参集し、相互交流を深め、タイにおける同窓生のネットワークをさらに強化しました。

記念式典では、杉山総長の挨拶の際にチュラロンコン大学学長から花束贈呈があり、ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校学長からも祝花をいただきました。また、日本大使館からは祝辞をいただく等、多くの出席者から温かいお祝いの言葉をいただきました。さらに、水谷副総長からバンコク事務所の10年の活動紹介、木村副総長及び名古屋大学同窓会タイ国支

部長から設立19年となる同窓会の活動紹介が行われました。出席者は100名を超え、盛大かつ意義深い式典となりました。

式典に引き続き、杉山総長、木村副総長、水谷副総長及び式典に参加した部局長等が、タイの同窓生と親睦を深める懇談の場を持ちました。出席者は自己紹介、近況等の報告等

を行い、活発な交流が行われました。同窓生は、杉山総長に会えたことを大変喜び、和やかな雰囲気の中で写真撮影や懇談のひとつときを楽しんでいました。この場を通じて、同窓生の親交もさらに深まり、有意義な交流が行われました。



同窓生を交えた集合写真

動翼を用いたハイブリッドロケットのロールおよびピッチ制御の実証実験自作エンジンでの燃焼試験の実施と推力履歴の測定

申請代表者：前田賢三
(工学研究科 航空宇宙工学専攻 修士1年 名古屋大学宇宙開発チーム NAFT)

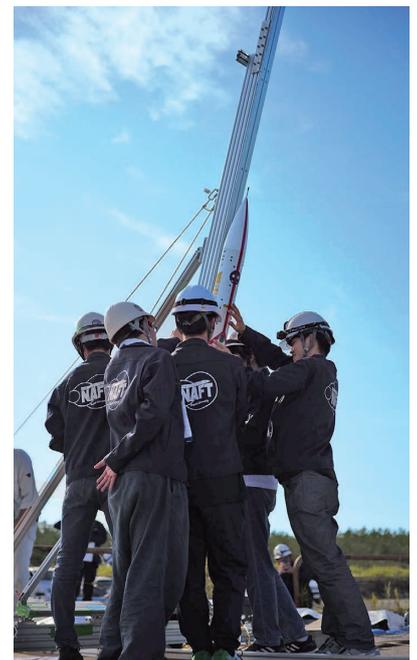
名古屋大学宇宙開発チーム NAFT は、2024年度に秋田県能代市で開催された能代宇宙イベントにおいて、ハイブリッドロケット「MP-16 Helix」の打上実験と自作ハイブリッドエンジンの開発を行いました。

今回の打上では「動翼によるロール制御」をミッションとしました。当初予定していたピッチ制御は飛行の安全性を確保できないこと、2024年3月に打上げた同ミッションの機体で飛行データの回収に失敗した経験を踏まえ、再びロール制御に絞って開発を進めました。機体は2024年8月20日に打上・回収に成功し、取得した飛行データおよびカメラ映像から、動翼によってロール角速度が減少していたことを確認でき、動翼による効果を実証することにも成功しました。また、NAFTとしてはコロナ禍明け後3回目の打上成功となり、失われかけていたノウハウを取り戻すことができたと共に、困難なミッションにも取り組むことができ、確実な成長を確認できる機会となりました。

あわせて、団体初となる自作ハイブリッドエンジン「NE-2」の開発も行いました。設計と製作は完了しましたが、燃焼試

験前に実施した耐圧試験において密閉性の基準を満たすことができず、燃焼試験は実施不可と判断しました。現在は設計を全て見直し、2025年度から新たに「NE-3」の開発を進める予定です。NE-2の燃焼試験には至らなかったものの、構造や燃焼特性、試験方法に関する多くの知見を得ることができ、エンジン完成への大きな一歩になったと思います。

これらの活動は全学同窓会からのご支援があってこそ実現できたものです。そして、これらの活動を通じて NAFT メンバーの理学・工学的な側面のみならず、チームとしての団結力やマネジメント能力などの向上につながりました。今後も NAFT はチーム一丸となって挑戦を続け、さらなる成長を目指していきます。



発射台立ち上げの様子

第21回ものづくり・創造性教育に関するシンポジウム

申請代表者：井上剛志
(大学院工学研究科 教授 (工学研究科創造工学センター長))

工学研究科創造工学センターは、令和6年11月15日、「第21回ものづくり・創造性教育に関するシンポジウム」を開催しました。このシンポジウムは、同様のものづくり関連組織を持つ全国の大学、高専27校が加盟する「ものづくり・創造性教育施設ネットワーク」が毎年持ち回りで開催しており、今年度は名古屋大学が幹事校となりました。全国の加盟大学、高専から12大学計20名の参加者を迎えました。

小橋眞工学研究科長の開催挨拶に始まり、井上剛志センター長が座長の下、全14講演発表が行われました。本学からは、レイト講師が「国際共修と先端技術を推進する実践型ものづくりプロジェクト」と題する、留学生に対するものづくりプロジェクトの実践事例を発表しました。各大学がそれぞれの

活動状況や取り組みを発表し、意義ある創造性教育施設の運営や未来についての情報交換を行いました。それぞれが持つ問題意識を共有し、新たな知見を得ることができる貴重な機会となりました。また、開催校の施設見学を行うことも恒例となっており、本学のオークマ工作機械工学館、技術部実験実習工場、フォーミュラチーム FEM の見学を実施しました。さらに、講演会の最後には、意見交換会を実施し、自由な討論の場を設けました。意見交換会では、事前アンケートで募った4つのテーマを中心に、活発な議論、有益な情報交換が展開されました。「ものづくり教育」「創造性育成教育」の重要性について、改めて認識するとともに、未来志向の、教育効果の高い運営を行うための情報交換や交流の場として、意義あるシンポジウムとなりました。

最後に、当シンポジウムは、名古屋大学全学同窓会支援事業としてご支援を賜り、開催できましたことに、改めて感謝申し上げます。



集合写真

留学生のキャリア支援のためのポッドキャスト

申請代表者：上村奈月美
(学生支援本部キャリアサポートセンター 就職相談員)

この度、名古屋大学全学同窓会のご支援をいただき、「留学生のキャリア支援のためのポッドキャスト」として令和7年1月よりキャリアサポートセンター国際キャリア支援部門 YouTube チャンネル (<https://www.youtube.com/@nucareer/playlists>) にて「留学生のためのキャリアラジオ」を開設しました。本プロジェクト開設に至った経緯は、キャリア相談員として日々留学生に接する中で、似たような相談が目立ったからです。それは、職種・仕事に対する理解が浅いため、具体的なイメージが掴めず「志望動機が上手く書けない」、「何を書いていい

のかわからない」という課題でした。背景には、OB・OGと接する機会がほとんどなく、情報源がインターネットのみに偏っていることがあります。そこで職種と仕事内容について詳しく知る機会を提供することが、国際キャリア支援部門としての急務と考えました。

令和6年度夏応募にて同窓会よりご支援をいただきましたが、録音機材の選定、購入、商品到着に時間を有し、当初10月に予定していた本プロジェクト始動が令和7年1月にずれ込みました。1月初旬時点で、企業の内定取得をした留学生2名を招き、就職活動経験についてインタビュー形式での収録を開始しました。同時に、プロジェクトチームとして、名古屋大学に所属する留学生を対象にアルバイトを募集し、修士課程学生1名、学部生2名の合計3名を雇用しました。週1回のチー

ムミーティングにて、聞きたい話等を基に選定し、学生目線でプロジェクト運営をしてもらいました。また分担して、録音した音声編集、サムネイル作成などを行い、収録順にYouTubeの更新作業もしてもらいました。

令和7年7月現在、内定者（収録当時）の就職活動体験として3本、名古屋大学を卒業して日本で働くOB・OGの就職経験と現在の仕事内容などについて12本、合計15本を収録し、12本をYouTubeにて限定公開しております。うち、6回は「留学生のための仕事理解講座」として対面での公開収録形式で開催し、合計37名の在学生在が参加し、OB・OGと直接交流することができました。

先述通り、留学生担当就職相談員として働く中で、まだ学生たちの応募段階での職種・仕事理解、自分の将来への想像が乏しいことを実感しています。名古屋大学に在学し、日

本での就職を目指す学生に心構えをさせると共に、企業での職種や仕事環境、雰囲気などの理解を促す一助になればと考え、今後も本プロジェクトを継続していく所存です。

この度はご支援ありがとうございました。



法学研究科OBを招いた回では、CALEの牧野先生にもインタビューとしてご協力いただきました

第36回出雲全日本大学選抜駅伝競走

申請代表者：中川大輔

(工学部 物理工学科 4年陸上競技部 主将)

名古屋大学陸上競技部は、令和3年に開催された東海学生駅伝で18年ぶり2度目となる優勝を達成し、令和4年の第36回出雲全日本大学選抜駅伝競走の出場権を獲得しました。この駅伝は全日本大学駅伝、箱根駅伝とともに学生三大駅伝と呼ばれており、全国から強豪が集結するものです。駅伝に先立って、10月5日に理学部坂田・平田ホールにおいて、陸上競技部とOB・OG会共催で総長ご臨席の下、壮行会を開催いたしました。そして駅伝当日は、陸上競技部36名の部員がJRで開催地の出雲市へ出かけ、沿道で応援を行いました。

大学支援事業の申請書では、助成金の使途内訳として、バ

スの借り上げ（出雲往復）40万円、駅伝競走出場を掲げる横断幕10万円としていました。しかし、昨今のバス事業の状況からバスの借り上げが困難だったため、代わりにJRで出雲往復となり、当初の計画より費用がかさむこととなりました。そこで横断幕作成を断念し、代わりに壮行会のホール使用料8,442円に充て、助成金50万円の残り491,558円を全て部員のJRの移動費用の一部に充てることとしました。そして結果は、目標の14位にわずか14秒差で及ばず総合15位と健闘いたしました。当日駅伝の様子はフジテレビ系列で全国に生中継され、名古屋大学の名前とその活動を全国に散らばる名古屋大学同窓生、一般の方に伝えられるまたとない機会となりました。これもひとえに大学支援事業によるご支援のたまものと陸上競技部部員一同感謝いたしております。ありがとうございました。



壮行会集合写真

訃報

丹羽宇一郎顧問が令和7年12月24日にご逝去されました。

丹羽顧問は、平成14年10月の名古屋大学全学同窓会創設に際し、多大なるご尽力を賜り、創設以来、令和5年10月までの21年という長きにわたり副会長として本会の発展にご貢献いただきました。また、平成15年3月に設立された全学同窓会関東支部においては、初代支部長として、同じく令和5年10月まで支部長を務められ、首都圏における同窓生の結束と活動の基盤づくりに尽力されました。さらに、平成26年より学士会との共催により開催している全学同窓会講演会においては、第1回講師としてご登壇いただき、「グローバルゼーションと日本の将来」をテーマに、全権日本大使として中国全土を回られたご経験を交えつつ、中国の政治・経済情勢と日本の将来について示唆に富むご講演を賜りました。そのお言葉は、同窓生のみならず多くの参加者に深い感銘を与え、現在に至るまで本講演会の礎となっております。

丹羽顧問の卓越したご見識と、大学と社会、そして同窓生を結ぶ活動への情熱は、名古屋大学全学同窓会の歩みに深く刻まれております。

ここに生前のご功績に深甚なる敬意と感謝を表しますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

名古屋大学全学同窓会会長 柴田昌治

事務局からのお知らせ From the NUAL Office

● 支援会費のお願い Call for contributions

名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられています。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

○ 支援会費 Supporting Fee

支援会員 Supporting member : 一口 5,000円

支援法人会員 Supporting institution : 一口 50,000円

○ 払込方法

二次元バーコードの【払込方法】からご確認ください。※クレジットカード決済を導入いたしました。自動引落利用ご希望の方は、預金口座振替依頼書をお送りしますので、同窓会事務局にご連絡ください。



● 住所等の登録・変更について NUAL member registration

全学同窓会では、名古屋大学と連携して、名古屋大学卒業生等電子名簿を整備し、大学及び同窓会からの情報発信を行っています。住所等の変更があった場合は、名古屋大学卒業生等電子名簿システム (<https://web-honbu04.jimu.nagoya-u.ac.jp/nual/>) の情報を更新いただきますようお願いいたします。

お問合せ先：名古屋大学 Development Office (DO 室) 卒業生等電子名簿担当

052-747-6559 (9:00~16:00) sotugyoumeibo@mail.nagoya-u.ac.jp

「名古屋大学カード」の入会のご案内

～ 名古屋大学カードで繋がる大学支援 ～

全学同窓会は、同窓生と母校との連携強化・大学支援の充実を目指し、「名古屋大学カード」を発行しており、利用金額の一部が同窓会に還元されます。

◆ 名古屋大学カード ～ ゴールド ～

入会者は**21,000名**を超えています。



年会費永年無料!

家族会員様も1名様に限り無料。

ポイントがたまる!

家族会員様のご利用分もまとめて本会員様へ付与。

- 国内・海外旅行傷害保険付帯 最高3,000万円
- ショッピング保険 年間補償限度額 200万円
- 空港ラウンジサービス

入会方法について

① WEBからのご入会をご希望の方

名古屋大学全学同窓会 HP からお申込みください
⇒ <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

② 入会申込書からのご入会をご希望の方

名古屋大学全学同窓会へ入会申込書をご請求ください
⇒ TEL/FAX: 052-783-1920 (受付: 9:00~17:00)

● カード優待サービス企業の紹介 <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/information/OBservice.html>

● カード優待サービスの企業を募集しています。詳細は全学同窓会事務局へお問い合わせください。

編集後記

本同窓会の創設と発展に多大なるご尽力をいただきました丹羽宇一郎顧問の訃報に接し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。本号では、シンガポール支部の設立やホームカミングデイでの国際交流関連行事、タイ支部20周年式典に加え、同窓会講演会や多彩な支援事業の報告など、丹羽顧問の遺志を受け継ぎ国内外で発展する同窓会活動の様子が集まりました。今後とも本同窓会への変わらぬご支援を賜りますよう、どうぞよろしく願い申し上げます。

(全学同窓会広報委員会)

NUAL Newsletter

No.45 令和8(2026)年3月発行

Nagoya University Alumni Association

NUAL 名古屋大学全学同窓会

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 TEL/FAX 052-783-1920

E-mail nual-jimu@mail.nagoya-u.ac.jp

ホームページ <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集：名古屋大学全学同窓会広報委員会

